



2023年3月期第2四半期 決算補足資料

2022年11月9日

株式会社ウィルグループ (東証プライム市場 6089)

目次

I .2023年3月期第2四半期 実績

II .2023年3月期通期業績予想、配当予想

I .2023年3月期第2四半期 実績

2023年3月期第2四半期累計 連結実績

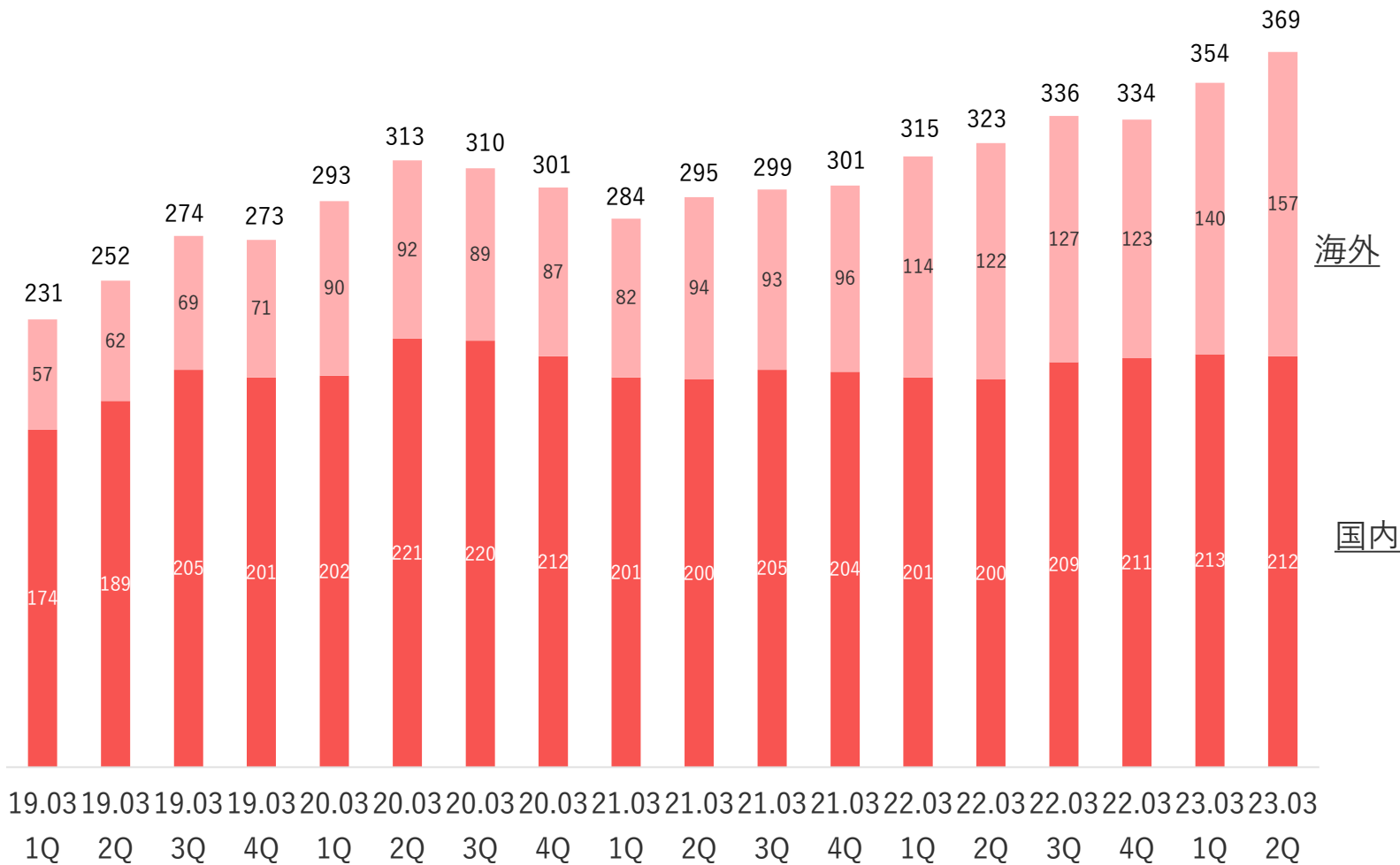
国内WORK事業が、第2四半期感染症再拡大で伸び悩む中、海外WORK事業が為替影響含め堅調に推移。

(億円)	前年同期 実績	業績予想 (2022年5月11日 公表値)	実績	前期比		業績予想比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上収益	639.1	670.0	723.5	+84.4	+13.2%	+53.5	+8.0%
売上総利益 (売上総利益率)	140.3 (22.0%)	149.3 (22.3%)	162.1 (22.4%)	+21.8 (+0.4pt)	+15.5%	+12.8 (+0.1pt)	+8.6%
販管費 (販管費比率)	114.7 (18.0%)	126.8 (18.9%)	134.2 (18.6%)	+19.5 (+0.6pt)	+17.0%	+7.4 (△0.3pt)	+5.9%
営業利益 (営業利益率)	26.8 (4.2%)	22.5 (3.4%)	29.3 (4.1%)	+2.4 (△0.1pt)	+9.3%	+6.8 (+0.7pt)	+30.4%
税引前利益	27.1	21.9	29.4	+2.3	+8.5%	+7.5	+34.6%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	16.9	12.5	17.4	+0.4	+2.7%	+4.9	+39.5%
EBITDA (営業利益+減価償却費及び償 却費)	36.5	32.7	39.6	+3.1	+8.6%	+6.9	+21.1%

従業員数：6,119人
(前年度末比：+756人)

連結売上収益の四半期推移

(億円)

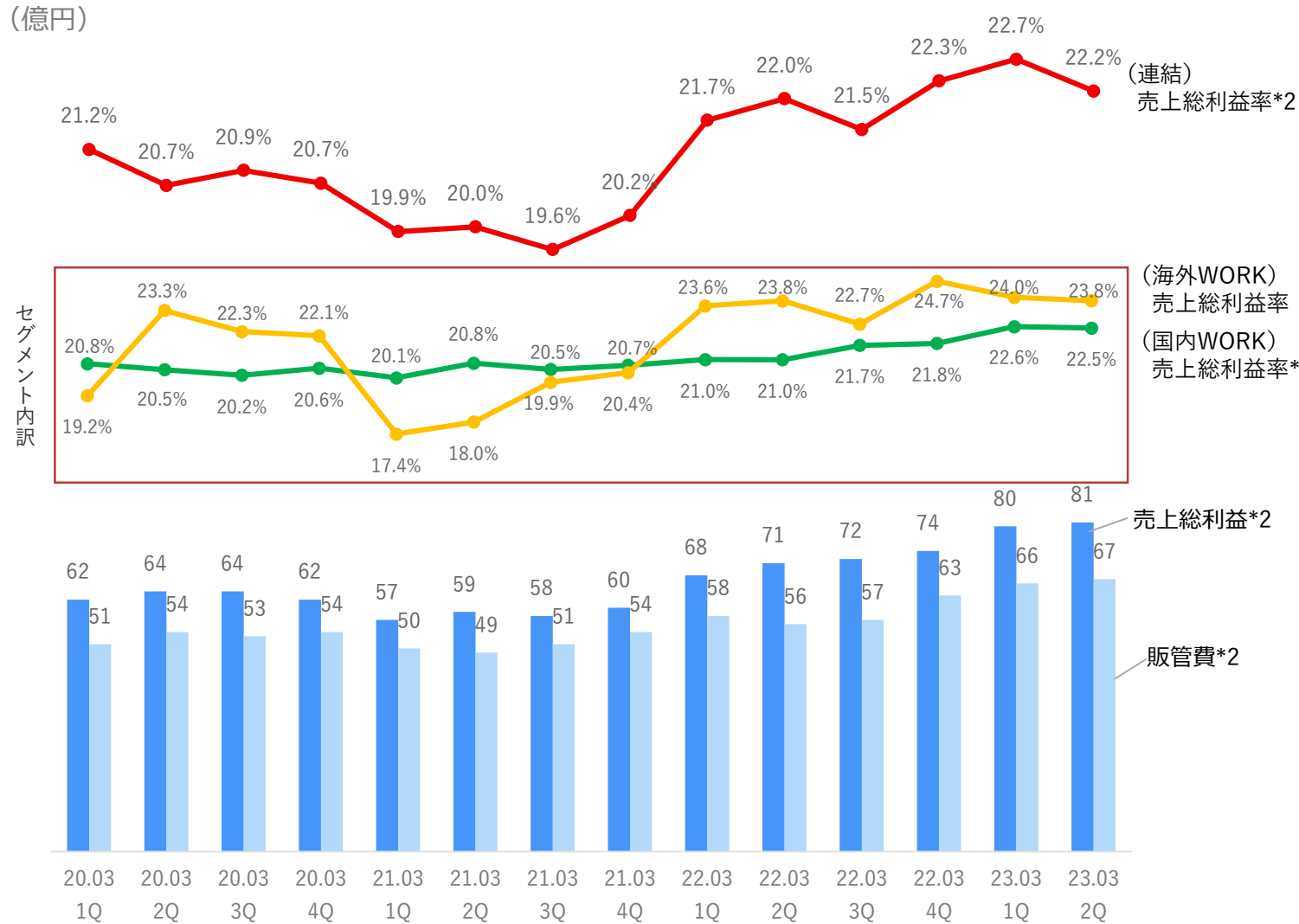


2Qは、
23.3期1Q比：+15億円
(うち為替影響：+2億円)

海外は、引き続き順調。
国内は、感染症再拡大
による影響で伸び悩む。

※売上収益は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

売上総利益率の四半期推移



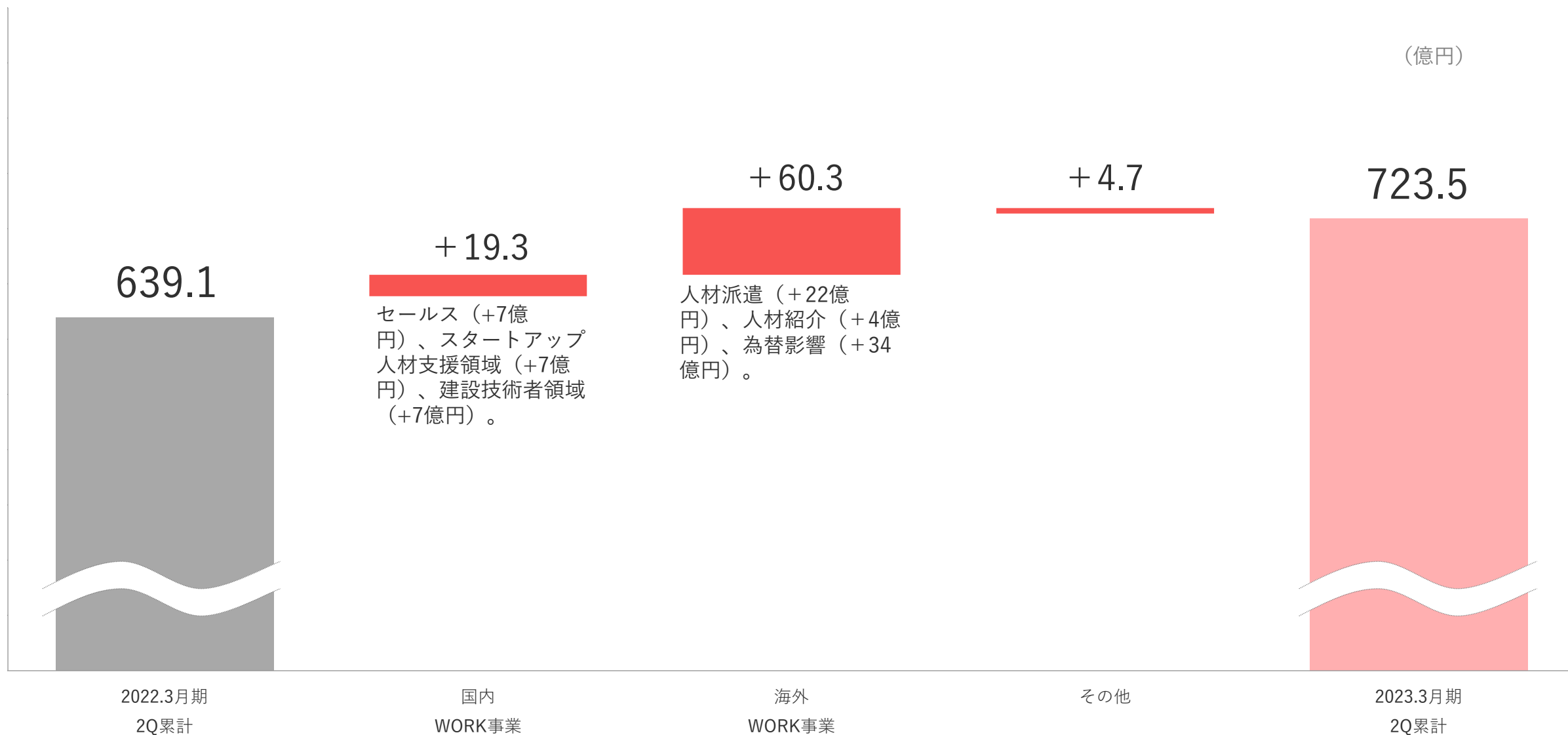
連結売上総利益率は、四半期比で若干低下するも、売上総利益額は着実に増加。

戦略投資領域（建設、スタートアップ、介護）の先行投資は、
 2Q累計計画：6.7億円
 2Q累計実績：4.7億円 (△2.0億円)
 未消化分の一部は、3Q以降に繰越し。

*1 セグメント内の連結調整は含んでいません。また、20.03期は従来の会計方針での数値です。

*2 売上総利益、販管費は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

2023年3月期 2Q累計 売上収益 前年同期増減内訳



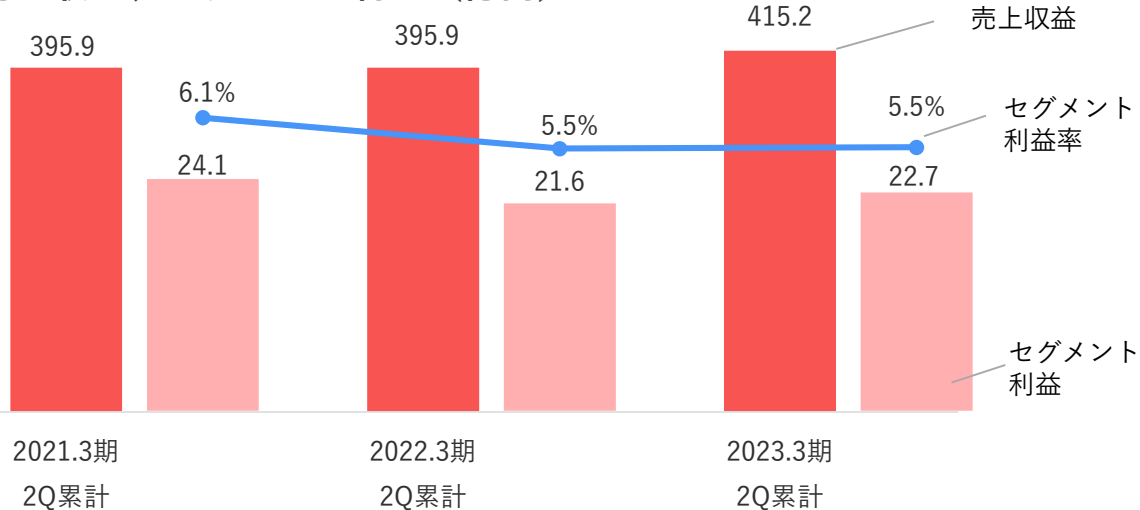
2023年3月期 2Q累計 営業利益前年同期増減内訳

(億円)



国内WORK事業

-売上収益、セグメント利益（億円）-



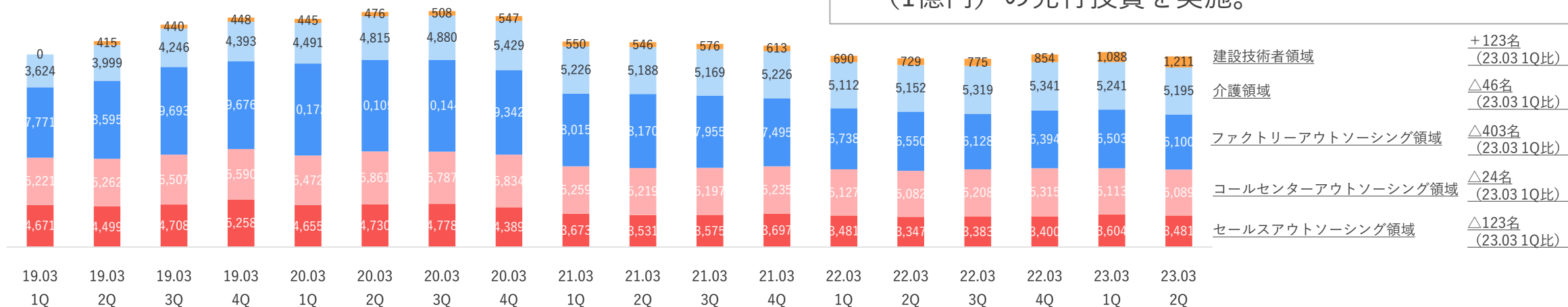
(億円) 計画 実績 計画比 前期 前期比

売上収益	426.6	415.2	△2.7%	395.9	+4.9%
セグメント利益	23.9	22.7	△4.7%	21.6	+5.4%

-トピックス-

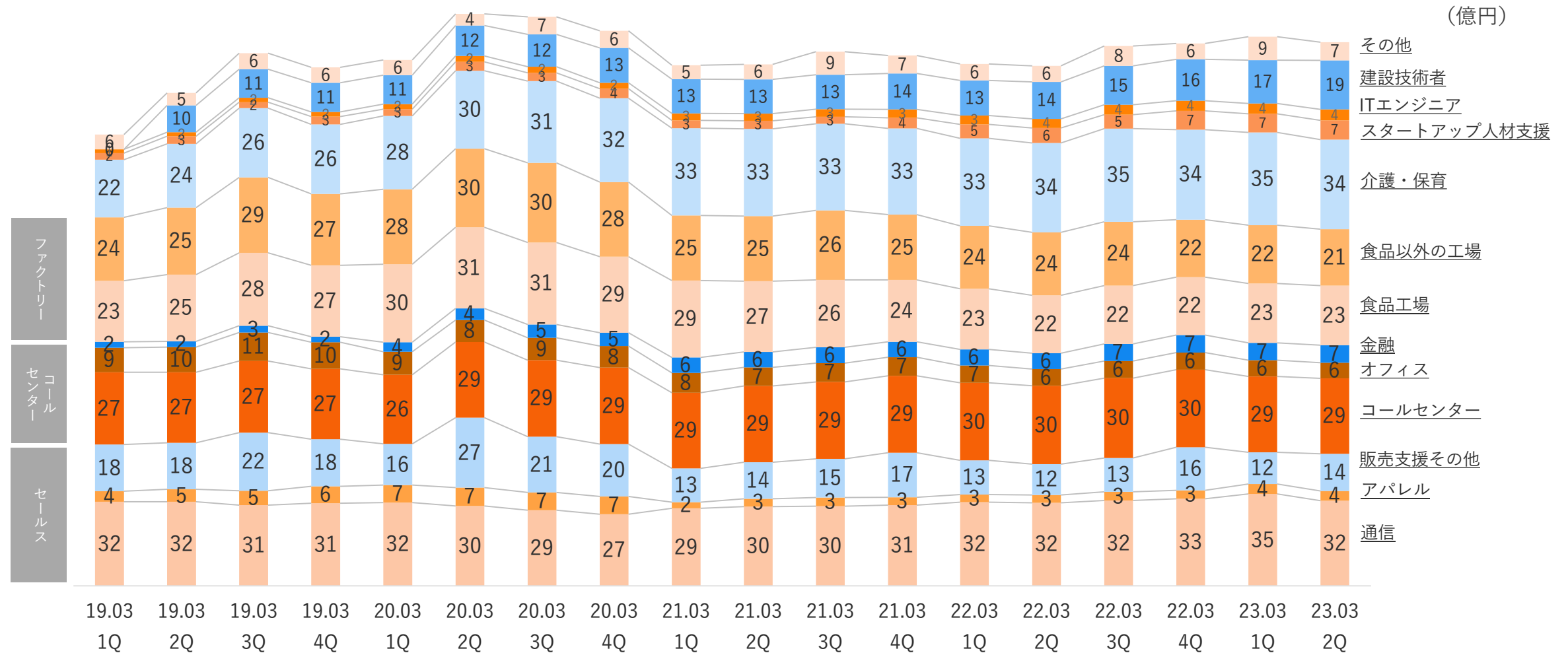
- 7月から9月にかけての感染症再拡大により、新規案件の獲得が遅れたことに加え、派遣スタッフの欠勤増加。
- 2Qの稼働スタッフ数は、感染症再拡大の影響を受け、建設技術者領域を除き減少。
- 建設技術者領域（3億円）、スタートアップ人材支援領域（1億円）の先行投資を実施。

-稼働スタッフ数（人）-



国内WORK事業（分野別売上の内訳）

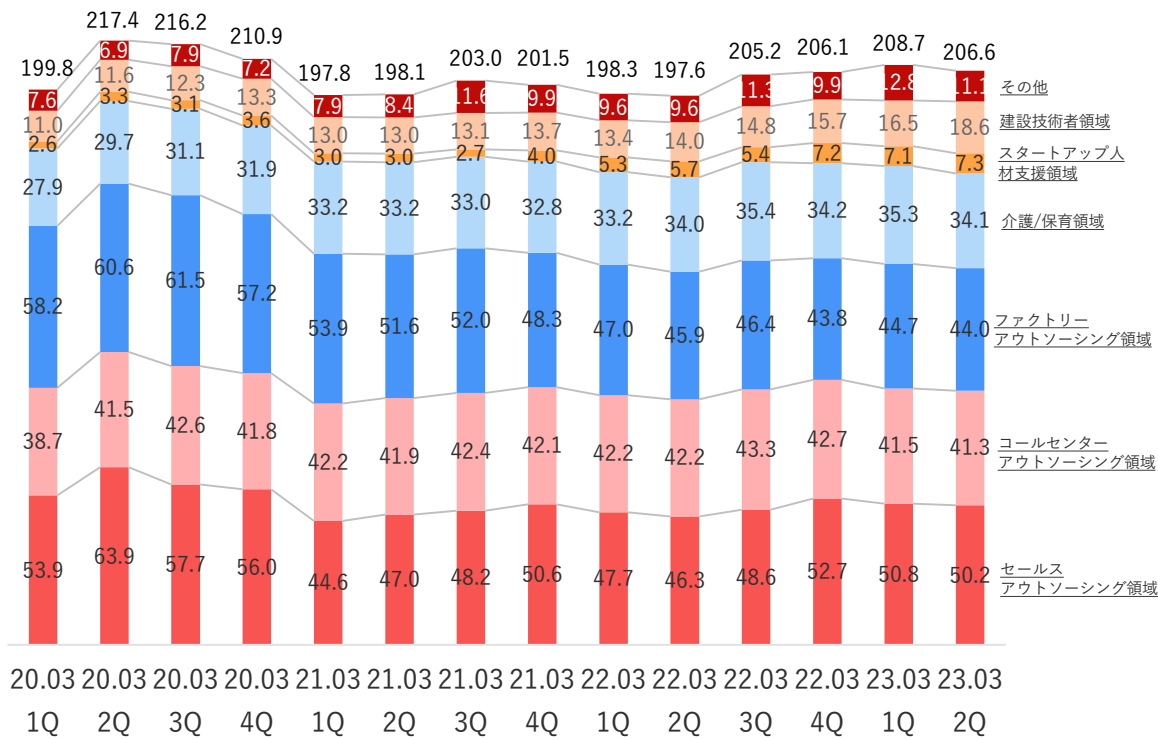
介護・保育領域、スタートアップ人材支援、建設技術者領域が堅調に推移。



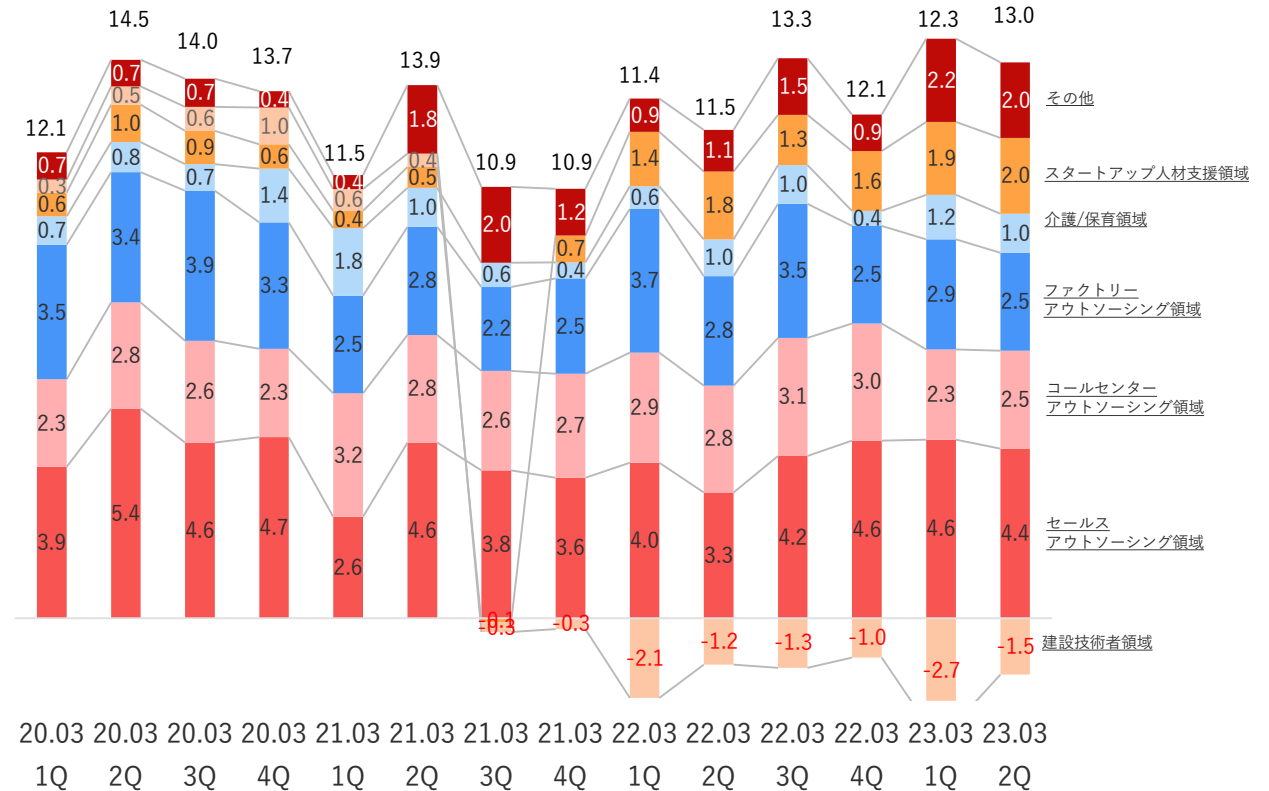
国内WORK事業（領域別売上高、営業利益）

建設技術者領域は、当年度は先行投資（人員増強、採用費投下）期間。

-領域別売上高（億円）-

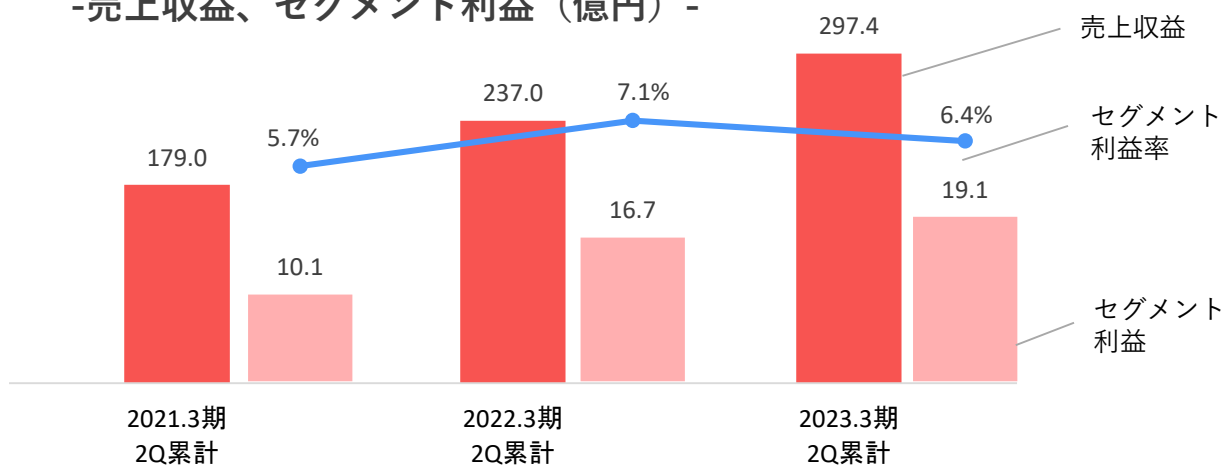


-領域別営業利益（億円）-

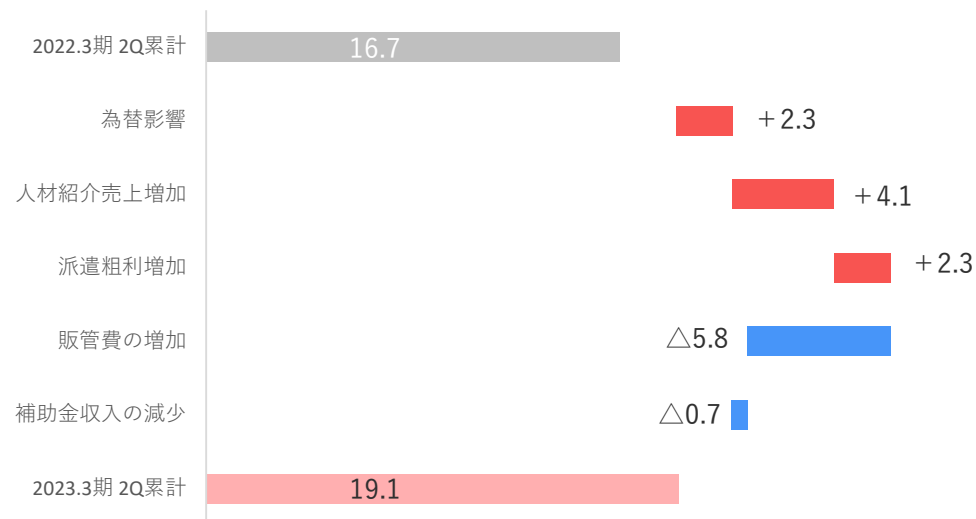


海外WORK事業

-売上収益、セグメント利益（億円）-



-セグメント利益増減要因（億円）-



(億円)	計画	実績	計画比	前期	前期比
売上収益	234.2	297.4	+27.0%	237.0	+25.5%
セグメント利益	11.8	19.1	+62.0%	16.7	+14.2%

-トピックス-

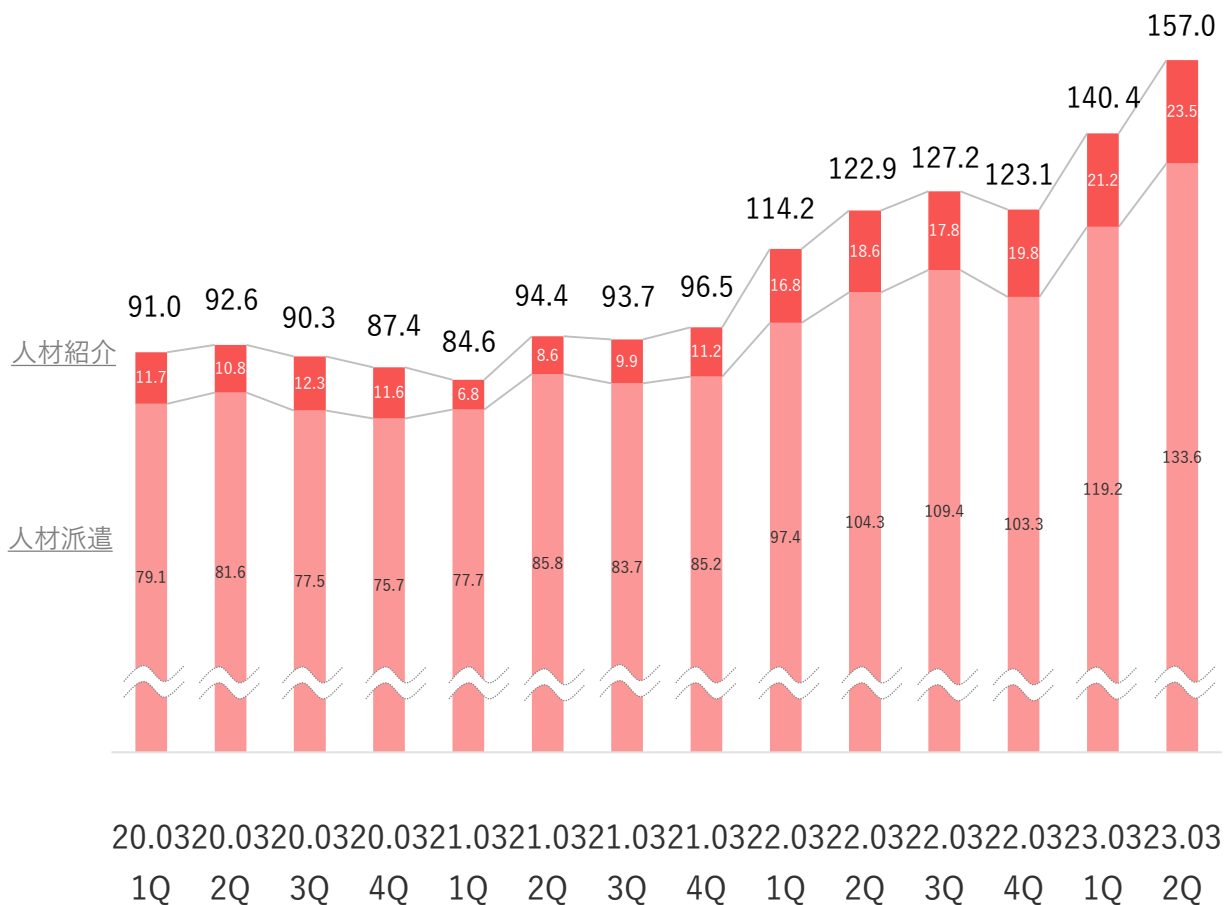
- 豪州、シンガポールとも求人件数は、過去最高水準で推移しており、人材派遣、人材紹介とも増加。
- オーストラリアドル、シンガポールドルとも円安に推移。
為替影響は、
（計画比）売上収益：+50億円、営業利益：+3.0億円
（前期比）売上収益：+34億円、営業利益：+2.3億円

	計画レート	2Q実績レート	前年同期レート	1円変動による影響額/年	
				売上収益	利益
オーストラリアドル	78円	93円	83円	4.6億円	0.3億円
シンガポールドル	79円	96円	82円	1.1億円	0.1億円

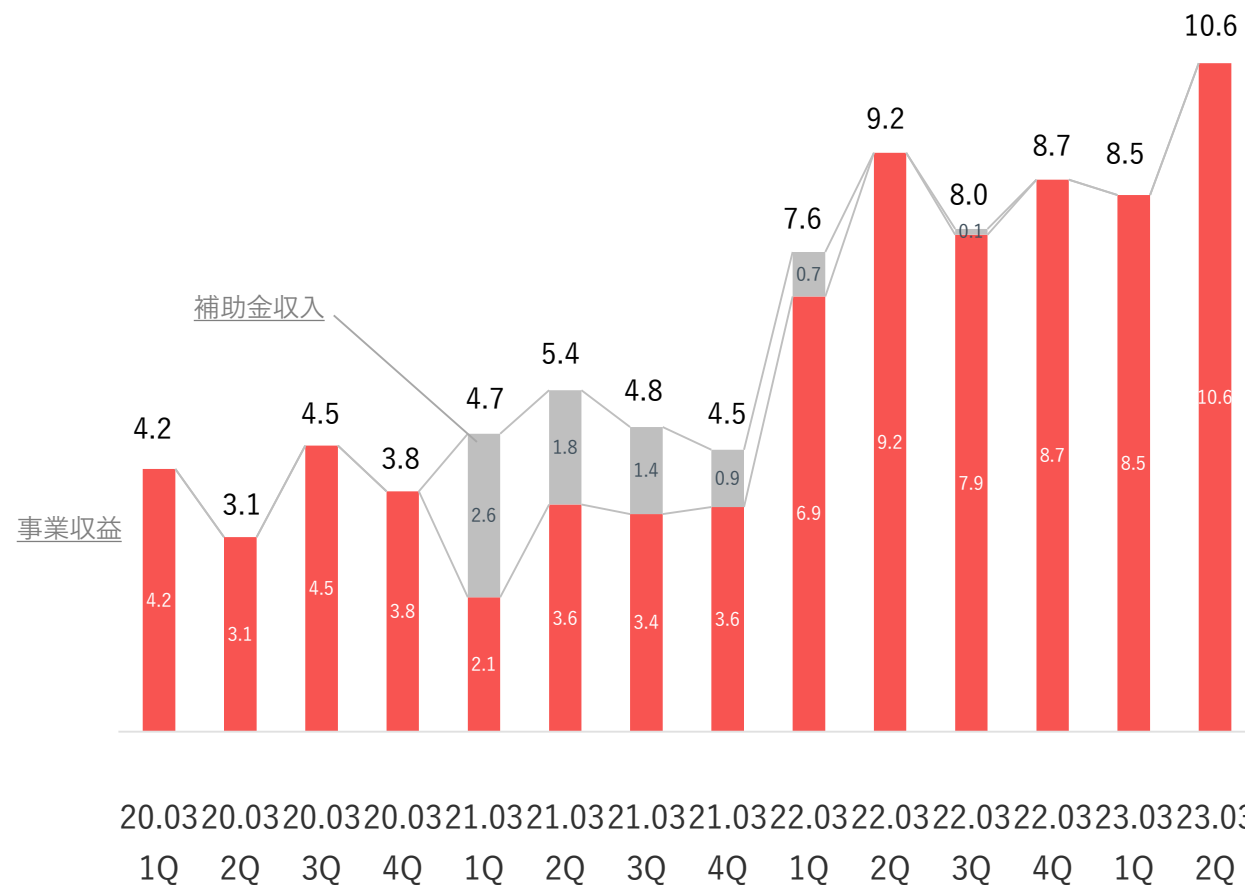
海外WORK事業（契約形態別売上高、営業利益推移）

今期は前期の反動減を見込んでいたものの、為替影響も含め人材派遣、人材紹介とも順調に成長。
2Qは、四半期で過去最高の売上、利益となる。

-契約形態別売上高（億円）-



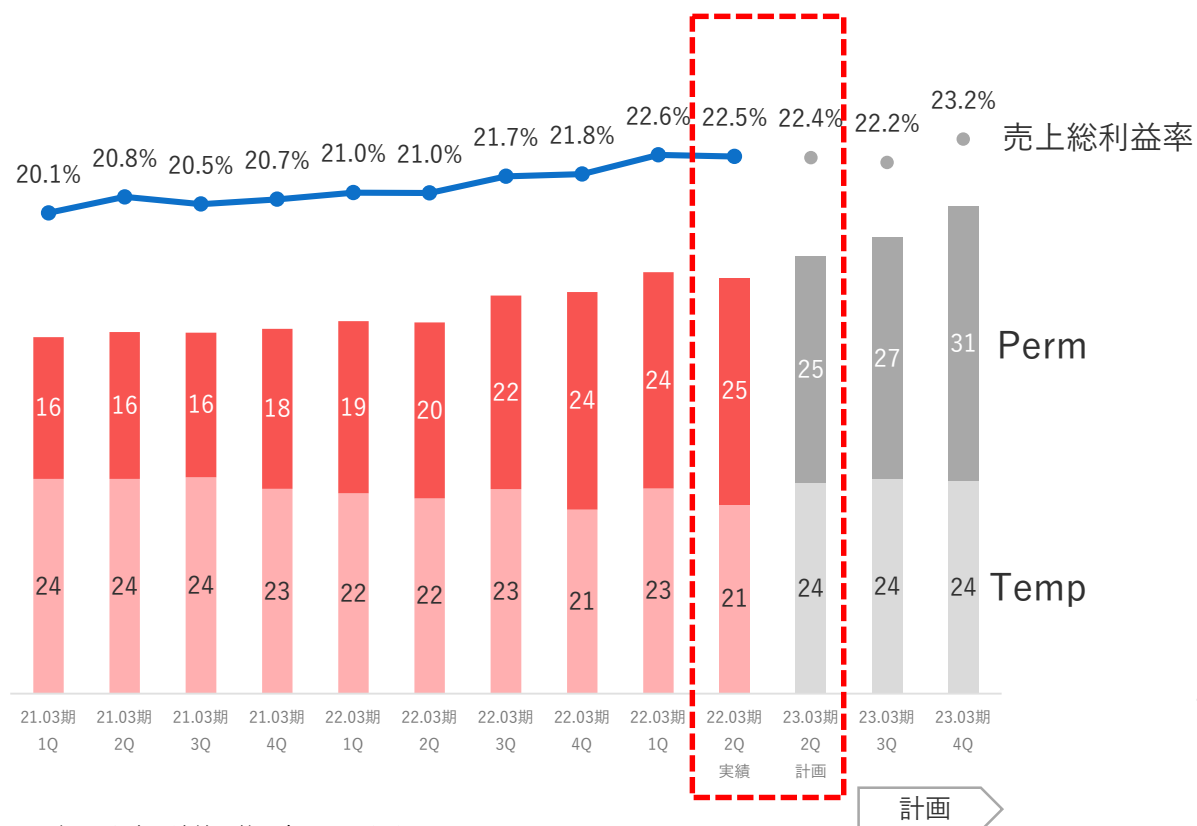
-営業利益（億円）-



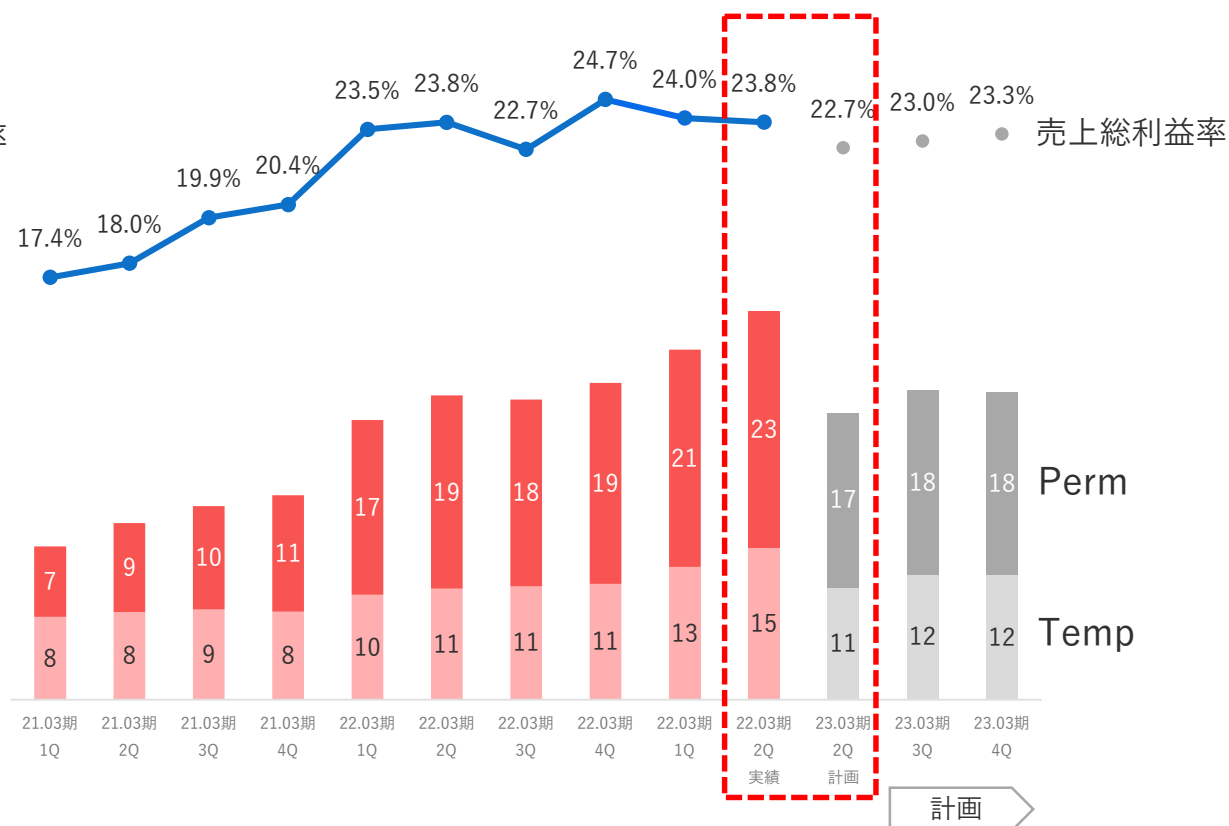
(国内・海外) ポートフォリオシフト進捗

国内WORK事業は、計画通り進捗。海外WORK事業は、Temp（人材派遣）の増加により、売上総利益率は低下するものの、売上総利益額は計画を大きく上回って推移。

-国内WORK事業 Temp/Perm別売上総利益※（億円）-



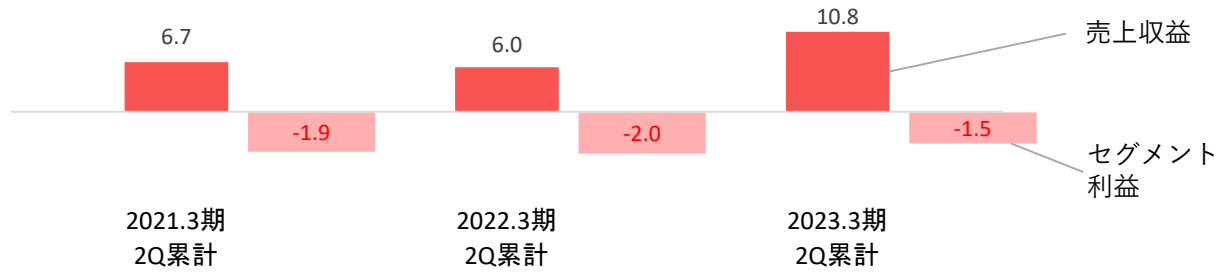
-海外WORK事業 Temp/Perm別売上総利益（億円）-



※セグメント内の連結調整は含んでいません。
売上総利益、売上総利益率は、海外の補助金収入の影響等を除いた調整後の数値です。

その他

-売上収益、セグメント利益（億円）-



(億円)	計画	実績	計画比	前期	前期比
売上収益	9.1	10.8	+19.5%	6.0	+78.7%
セグメント利益	△1.0	△1.5	-	△2.0	-

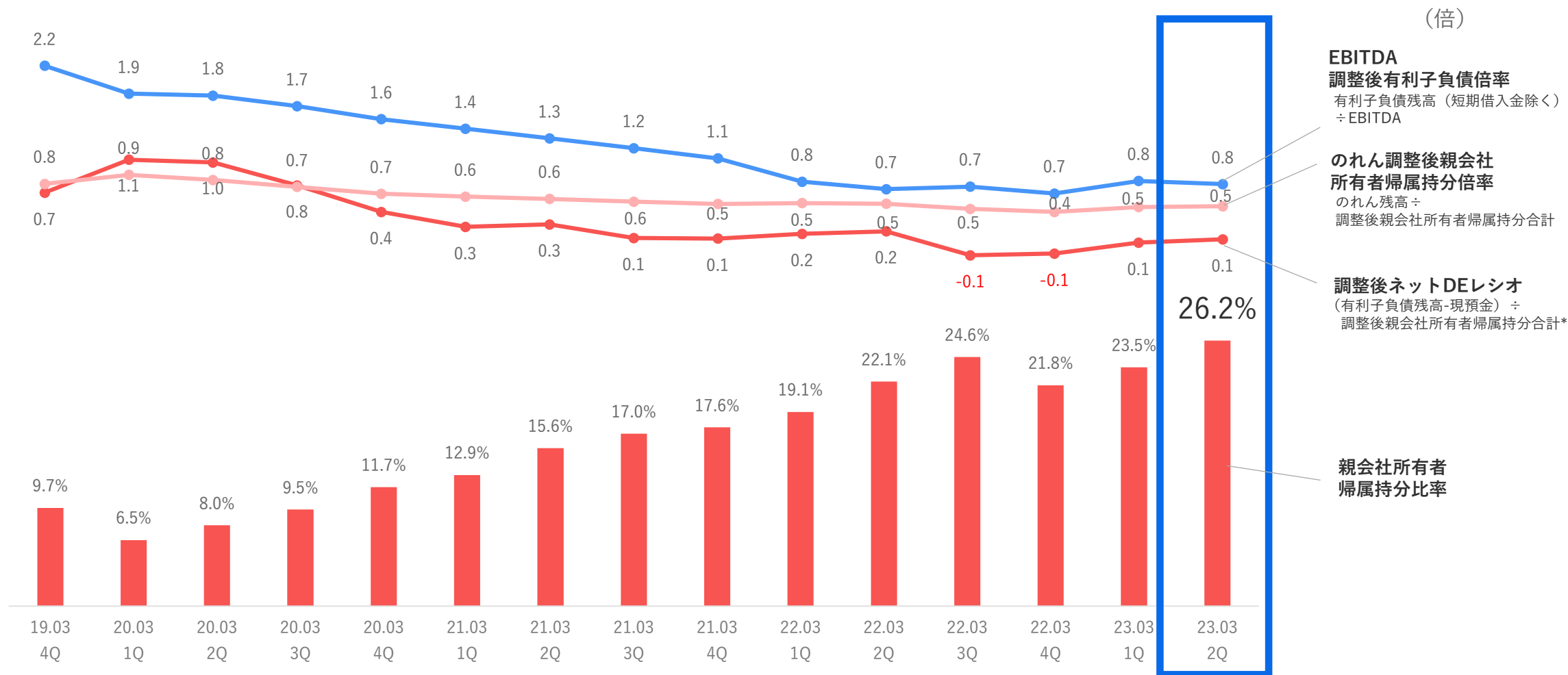
-その他の事業内容-



-トピックス-

➤探索領域（インバウンドサービス）への先行投資を継続実施。入国制限緩和により、外国人の入国再開が徐々に本格化。

親会社所有者帰属持分比率は、2Qで26.2%。中期経営計画目標：20%を上回って進捗。



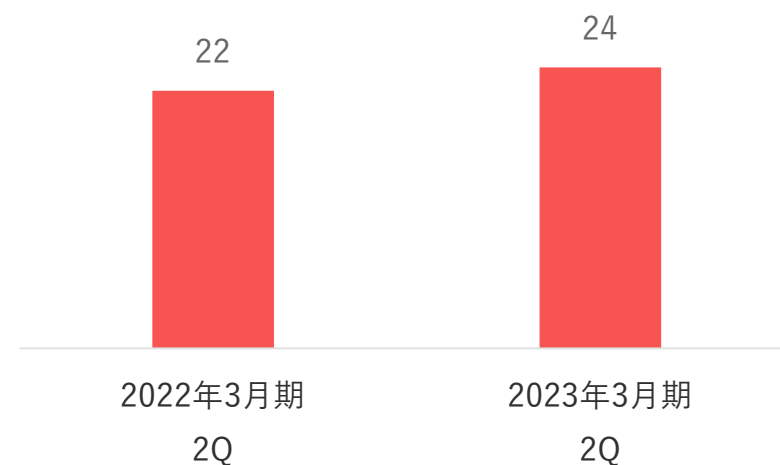
連結貸借対照表

(億円)	2022年 3月末	2022年 9月末	増減	主な増減要因
流動資産	272.8	264.0	△8.8	
うち現金及び現金同等物	89.7	71.0	△18.7	海外連結子会社2社の株式追加取得による減少 (△37億円)
うち営業債権及びその他の債権	174.5	180.1	+5.5	
非流動資産	250.6	248.7	△1.8	
うちのれん	65.1	67.9	+2.8	
うちその他の無形資産	61.5	61.8	+0.2	
資産合計	523.5	512.7	△10.7	
流動負債	293.6	262.3	△31.2	
うち営業債務及びその他の債務	152.9	162.9	+9.9	
うち借入金	57.8	52.6	△5.1	
うちその他の金融負債	52.4	14.2	△38.1	株式追加取得によるプット・オプションの減少 (△37億円)
非流動負債	98.6	103.6	+5.0	
うち借入金	22.0	32.6	+10.6	借入 (+25億円)、返済 (△15億円)
うちその他の金融負債	62.8	59.2	△3.6	
負債合計	392.2	366.0	△26.2	
資本合計	131.2	146.6	+15.4	
うち親会社の所有者に帰属する持分合計	113.9	134.3	+20.3	親会社株主に帰属する四半期純利益の計上 (+17億円)
負債及び資本合計	523.5	512.7	△10.7	
親会社所有者帰属持分比率	21.8%	26.2%	+4.4pt	

連結キャッシュ・フロー

(億円)	2022年3月期 2Q累計	2023年3月期 2Q累計
税引前利益	27	29
減価償却費及び償却費	9	10
法人所得税の支払額	△7	△10
その他の営業活動	△8	△2
営業活動によるキャッシュ・フロー	21	26
有形固定資産等の取得及び売却	△3	△1
子会社株式の取得及び売却	0	0
その他の投資活動	4	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	1	△2
有利子負債の純増減	△11	△0
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得及び売却	△19	△37
支払配当金	△5	△7
政府補助金による収入	0	0
その他の財務活動	0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36	△47
為替変動の影響額	0	3
現金及び現金同等物の増減額	△14	△18
現金及び現金同等物四半期末残高	59	71
フリーキャッシュ・フロー（営業C/F+投資C/F）	22	24

フリーキャッシュ・フロー推移 (億円)



II.2023年3月期 通期業績予想、配当予想

2023年3月期通期業績見通し

2023年3月期通期連結業績予想につきましては、第2四半期累計業績が業績予想に対し上振れしているものの、第3四半期以降が以下の見通しであることから、既に公表している業績予想に変更はありません。

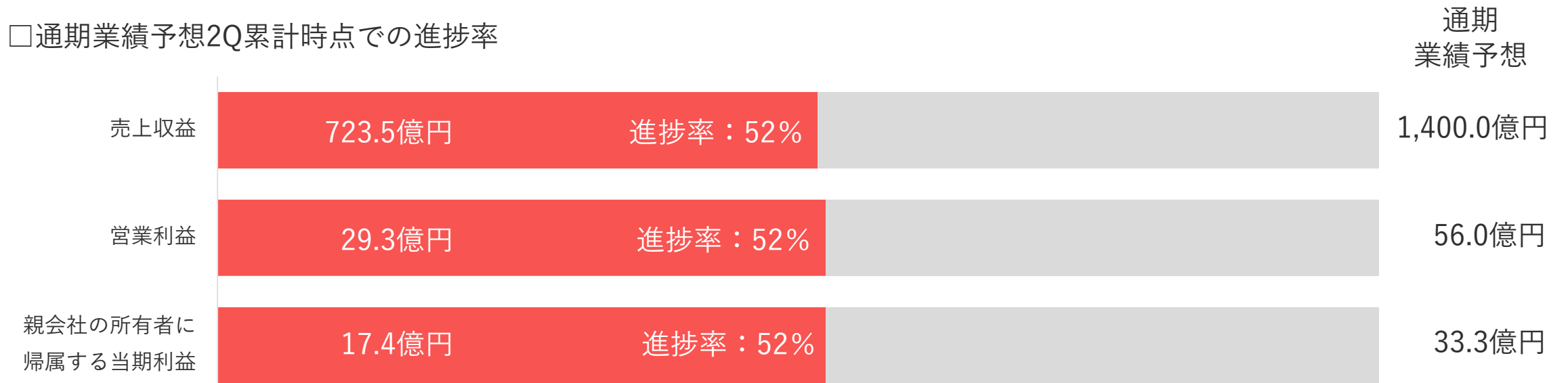
■売上収益

- ・国内WORK事業は、業績予想のシナリオでは第3四半期以降拡大を見込んでいましたが、7月から9月の感染症再拡大によって、新規案件獲得が遅れ、稼働スタッフ数を積み上げできなかったことにより、業績予想を下回る見通しです。
- ・海外WORK事業については、第3四半期以降も人材需要は堅調に推移する見通しであることに加え、プラスの為替影響により業績予想を上回る見通しです。

■営業利益

- ・国内WORK事業は、売上収益の減少に加え、戦略投資領域における先行投資予算を第3四半期以降に繰越（約2億円）していることから、業績予想を下回る見通しです。
- ・海外WORK事業は、為替影響を含め業績予想を上回る見通しです。

□通期業績予想2Q累計時点での進捗率



2023年3月期 通期連結業績予想、見通し

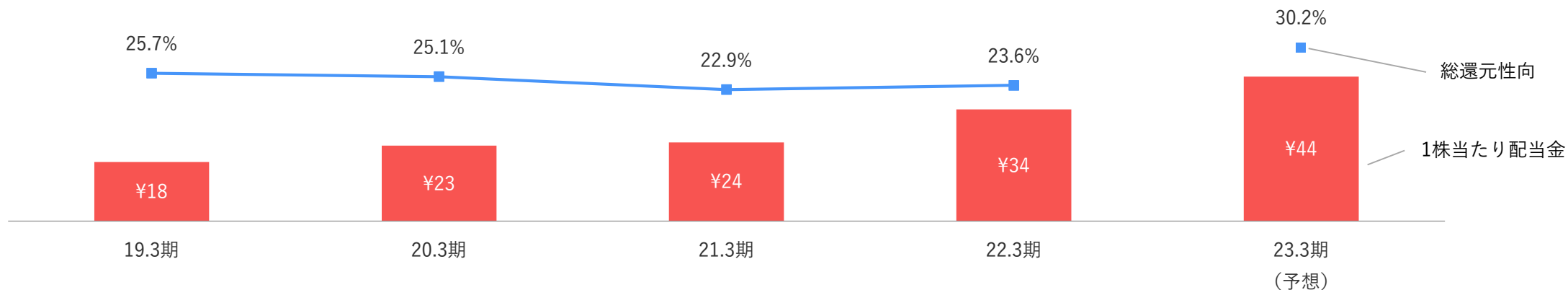
(億円)	2022.3月期	2023.3月期 (業績予想)	2023.3月期 (見通し)	業績予想比	
				増減	増減率
売上収益	1,310.8	1,400.0	1,400.0	+0.0	+0.0%
うち国内WORK事業	807.2	889.8	848.5	△41.3	△4.6%
うち海外WORK事業	487.4	490.3	527.8	+37.5	7.7%
うちその他	16.0	19.8	23.5	+3.7	+19.1%
売上総利益率	21.9%	22.6%	22.7%	+0.1pt	-
営業利益	54.7	56.0	56.0	0.0	0.0%
(営業利益率)	4.2%	4.0%	4.0%	0.0pt	-
うち国内WORK事業	44.4	56.9	44.4	△12.5	△22.0%
うち海外WORK事業	33.4	25.8	36.3	+10.4	+40.4%
うちその他	△3.4	△1.9	△1.9	△0.0	-
うち調整額	△19.8	△24.8	△22.7	+2.1	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	32.8	33.3	33.3	0.0	0.0%
EBITDA	75.5	76.7	76.7	0.0	0.0%
為替レート	前期実績	2023.3月期 (業績予想)	2023.3月期 (見通し)	1円変動による影響額/年	
				売上収益	利益
オーストラリアドル	83円	78円	93円	4.6億円	0.3億円
シンガポールドル	83円	79円	96円	1.1億円	0.1億円

2023年3月期 配当予想

期首配当予想を据置き。
2023年3月期配当予想は、期首業績予想に対する総還元性向:30%。

	2022.3月期	2023.3月期 配当予想
期末配当	34円/株	44円/株
総還元性向	23.6%	30.2%

■1株当たり配当金、総還元性向の推移



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



■ IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウィルグループ 財務部IRグループ

TEL : 03-6859-8880

Mail : ir@willgroup.co.jp

■ 「IRメール配信サービス」のご案内

当社では、IRに関するメール配信を行っています。適時開示情報やニュースリリース等最新のIR情報を素早くお届けしていますので、ぜひご登録ください。

IRメール配信登録▶



Appendix

海外（豪州、シンガポール）のマクロ環境



当社のビジネス環境

豪州、シンガポールとも2022年に入り、国境が全面的に再開されたこと等により、景気は新型コロナウイルスの感染拡大前の水準程度に持ち直しています。

人材需要においても、豪州、シンガポールともに求人件数は過去最高水準で、人材紹介事業を中心として堅調に推移しており、3Q以降も継続する見通しです。

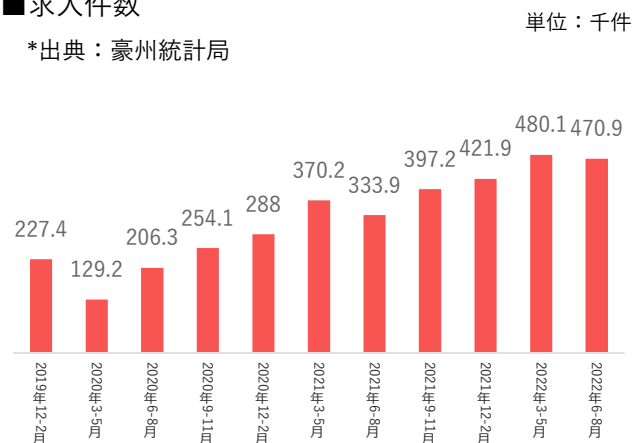
ただし、世界的な景気後退懸念、ロシア・ウクライナ情勢等含めた先行きには、注視が必要です。



関連経済指標

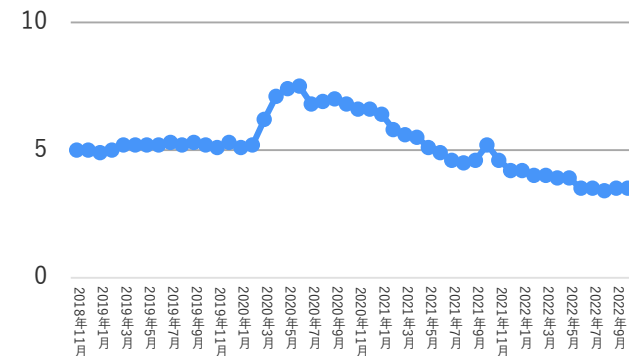
■ 求人件数

*出典：豪州統計局



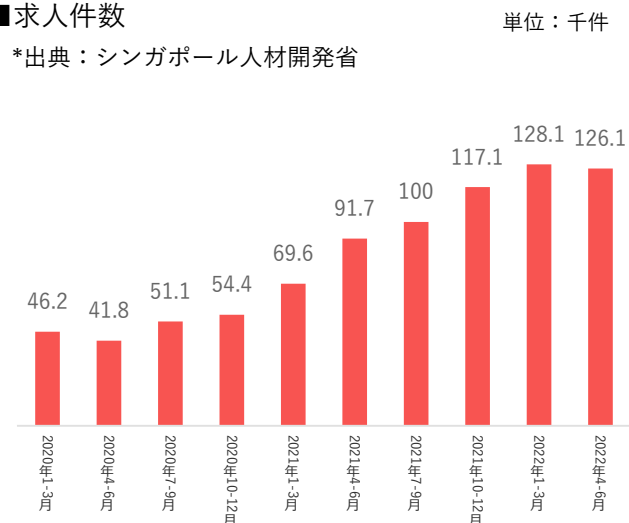
■ 完全失業率

*出典：豪州統計局



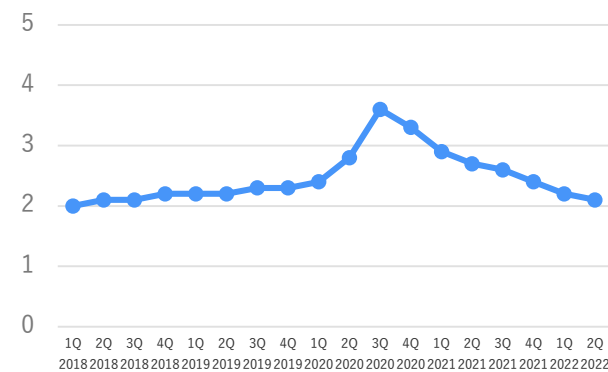
■ 求人件数

*出典：シンガポール人材開発省



■ 完全失業率

*出典：シンガポール統計局



減損リスクについて

現時点で全ての会社は、減損リスクはない見通し。ウィルオブ・コンストラクションは、将来の利益拡大に向けて2023年3期までは先行投資期間。

(億円)

	主要拠点	事業内容	連結開始 (持分割合)	投資残高 *1	*2	2022.3期 2Q	2023.3期 2Q	前年同期比
	首都圏、東北	東北地方を中心に建設技術者派遣・紹介を展開。経験・スキルの高い施工管理技士が多数在籍しており、特に建築土木の大型工事の技術者派遣において優位性を持つ。	2018/6 (100%)	25.4	売上	27.4	35.1	+28.2%
					利益	△3.2	△4.2	-
	シンガポール	シンガポールを中心に、香港、日本、米国、中国、オーストラリア及び英国の各国の完全子会社を通じて、HR領域に特化した人材紹介、コンサルティング事業を展開。	2019/1 (100%)	27.9	売上	11.8	11.6	△1.9%
					利益	4.9	3.9	△20.3%
	ブリスベン	オーストラリアにおいて、政府機関及び大手企業に対して人材紹介及び人材派遣を展開。	2019/4 (100%)	26.0	売上	55.8	59.3	+6.2%
					利益	7.7	6.6	△13.9%
	メルボルン	オーストラリアにおいて、政府機関、通信企業、エネルギー企業、電化製品製造業等、様々な業界の機関・企業に対し、事務職、コールセンター関連職の人材紹介及び人材派遣を展開。	2018/1 (100%)	16.6	売上	79.7	92.6	+16.1%
					利益	2.1	4.0	+87.4%

4 社合計投資残高 : 95億円
連結投資残高 : 115億円

*1 投資残高は、のれん残高と識別可能な無形資産残高の合計です。

*2 連結開示時期を問わず、売上、利益の実績については連結会計期間の4月-9月の実績を記しています。

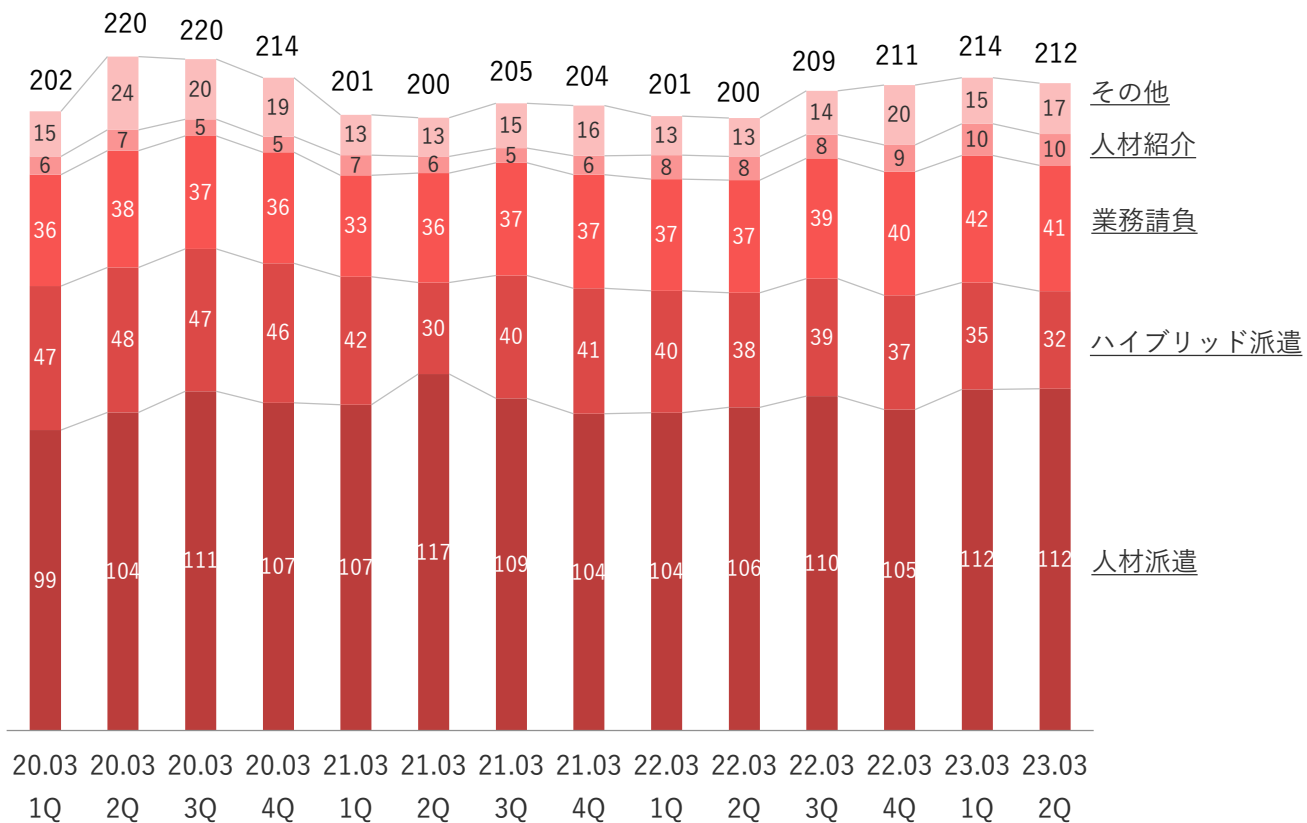
また、為替影響を除くため、1シンガポールドル=96円、1オーストラリアドル=93円で換算しています。

*3 利益については、識別可能な無形資産の償却額、内部取引、一時的に発生した費用を除いた税引前利益です。

地域別 契約形態別 売上収益

国内

(億円)



海外

